圓福寺報

圓福寺報　第八十六号
令和六年一月一日発行
発行者　臨済宗妙心寺派　圓福寺
千葉市稲毛区穴川町三七五　TEL（二五一）九一八一
https://www.chiba-enpukuji.com
E-mail:oshou@chiba-enpukuji.com

謹賀新年

令和六年　元旦

「龍吟ずれば雲起こり
虎嘯けば風生ず」

龍と雲はつきものであり、龍は水中とか地中に棲むとされることが多いが、その啼き声によって雷雲や嵐を呼び、また竜巻となって天空に昇り自在に飛翔すると言われる。その龍に対する虎も猛虎にふさわしく虎がひとたび吠えれば、まるで風を吹き起こすようなその凄まじさにおののき小獣は逃げ出してしまう迫力こそ「虎嘯けば風生ず」である。

目次

年頭法話
「求心歇む処即ち無事」――無理から無事へ　2
宗耕禅士、垂示式挙行
「垂示式に参列して」　塚本　勝身さん　6
「寺院役員本山研修会」　吉村　利晴さん　8
三巡目第十一回
「四国あるき遍路の旅」　10
「僧堂で何してる?」番外
「東海道行脚録」（その二）　16
市原別院耕雲寺収穫祭　19
「喜徳院三回忌厳修」　19
穴川花園幼稚園　園だよりから
「身近なサスティナブル」　20
土曜会・写経会・茶禅会　21
令和六年年忌表　22
令和五年下半期日録抄　22
令和六年年間行事予定　23
花園会新年会と
副住職就任祝いのご案内　24

求心歇む処即ち無事

ぐしん　やむところ　すなわち　ぶじ

無理から無事へ

むり　ぶじ

新年を迎えられて、身の回りは縁起物といわれるものに囲まれていることと存じます。身近なところでは、おせち料理でしょうか。一年間マメに働けるようにと「黒豆」、子孫繁栄を願って「数の子」、金運上昇を願って「錦玉子」「伊達巻」など、縁起の良いものをいただくことでしょう。

また、お正月の飾りとして、床の間のあるお宅では、宝船や七福神、鶴亀、高砂などの掛け軸が掛けられて、これまた縁起を良くしようという思いにあふれています。お寺の玄関には、賀正だるまの掛け軸を飾り、鏡餅をお供えして年始に来られる方をお迎えしています。

鯉の滝登り

そのような縁起物の掛け軸の中に、「鯉の滝登り」があります。

川を泳ぐ鯉が、もっと住み良い場所やえさが豊富な場所を求めて上流へと泳いで行くと、行く手をふさぐような滝がありました。滝の手前には、その滝を登れずに回遊しているたくさんの鯉がいました。その群れの話では、この滝を登り切った鯉は、龍になることができるというのです。今まで水の中でしか生きることができないと思っていたのに、この激しい滝を登ったら、空を泳ぐことができるというので、なんとしてでも登りたいと鯉は思いました。

みなさんご存じの登竜門のお話で、立身出世を叶える縁起物となりました。

中国黄河上流にある竜門山を切り開いてできた急流のことを「竜門」というのだそうです。昔、中国に李膺（りよう）という実力者がおり、彼に才能を認められれば出世が約束されたものと同じで、その認められた人は、竜門に登った鯉のようなものだとたとえられたことから、登竜門は立身出世の関門を突破する意味になったのだそうです。

昇り龍下り龍

さて、激流の滝を登った鯉は、ようやく今年の干支である龍になることができました。

水の中を自由に泳ぎ回ることができた鯉は、龍となって大空を自由に飛び回ることができるようになりました。おそらくはドローンのカメラで見る様な景色を、思いのままに見ることができたに違いありません。

しかし、龍はそれで満足はできなかったようです。同じく縁起物の掛け軸に、「昇り龍下り龍」があります。昇り龍は目的に向かってまっしぐらに登っていくとか、出世するとかの意味があるようですし、下り龍はその手中に玉をガシッとつかんでいるので、願いが叶った姿とも言われています。

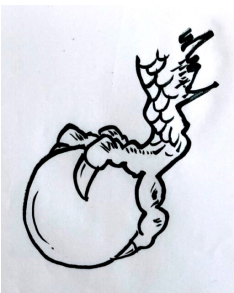
また、仏教では、悟りを求めて修行する、「上求菩提（じょうぐぼだい）」を昇り龍になぞらえ、自らが得た悟りをたくさんの人に説いていく「下化衆生（げけしゅじょう）」を、下り龍に例えたりしていますから、お寺の建物には龍の絵や彫り物などがよく使われています。

鯉から龍に姿を変えることができた彼のことを振り返ってみましょう。激流の滝に何度もチャレンジして、その胸びれも尾びれも傷だらけ、うろこもぼろぼろになるような苦労の末の滝を登り切り、龍になるという願いをかなえました。龍になって自由を得たはずなのに、彼の欲望はとどまりませんでした。

「天に昇ると、どんな願いも叶えてくれる宝珠を手に入れることができる。」という話を耳にしたのでした。激流の滝を昇るという成功体験をした彼は、さらなる願いを叶えるために意を決して天を目指すことにしました。しかし、天に向かうには、昨年のように猛暑を引き起こすギラギラの太陽に焼き尽くされそうになることもあるでしょう。さらに、台風やハリケーンの雨風に翻弄されることもあります。北極からの大寒波に凍えることもあるに違いありません。それでも、龍となった彼は、宝珠を手に入れるために、必死で頑張りました。そして、ついに宝珠を手に入れて、大地に舞い降りて来たのでした。

滝を昇って龍になることもできました。空を飛ぶこともできるようになりました。さらに、どんな願いでも叶えてくれる宝珠も手に入れたのでした。自分の願いや欲しいものを手に入れるという欲望を満たすことができた彼は、さらなる願いを叶えたいと思いました。

そこで彼は、



どんな願いでも叶えてくれる宝珠に、「私は次から次へと自分の願望を叶えるため、たくさんの辛い思いや苦労をいとわずにやってきた。振り返れば、願いや願望を叶えるために苦労した日々や費やした時間は、かけがえのない充実した時間や日々だった。その充実した時間や日々が続きますように。」と手を合わせたのでした。いつしか、彼にとって、滝を昇ること、天に昇って宝珠を手に入れることが願いではなくなっていたのです。

道中にこそ

圓福寺で行っている四国遍路も、三巡目がここ一、二年の間には結願、願いを結ぶことができそうです。

へんろ道を歩いて、ようやく札所にたどり着いて、団体のお遍路さんに出くわすと、到着したバスから、添乗員さんが大量の荷物を抱えて駆け下りてきます。その大量の荷物は、団体遍路さんの御朱印帳です。札所のお寺にお参りしたり、写経したものを納めた証に、本尊様の名号を書いていただき、朱色の印を押してもらうのです。四国遍路に行くというのは、このように札所ごとの御朱印をいただき、八十八か所の札所をお参りすることにほかなりません。その意味では、団体バスで行こうが、タクシーで回ろうが、目的は達成したことになります。

しかし、歩き遍路を経験した人たちが口にするのは、遍路の醍醐味、大切なところは、札所のお参りもさることながら、札所までの道中にあるといいます。

昨年十一月の四国あるき遍路の旅では、徳島と香川の県境、標高九百メートルの山頂にある雲辺寺をお参りしました。時ならぬ寒波の襲来で、朝からの暴風と横殴りの雨、札所に近づき標高が上がるにつれ、雨はミゾレに、そして雪になり、遍路道の両側には雪が積もっているありさまでした。二月に行った歩き遍路で、雪を踏みしめて遍路道を昇ったことがありましたが、十一月に雪中へんろをするとは思いもよりませんでした。

ようやく目指す雲辺寺にたどりつくと、境内は雪景色です。本堂でのお参りを終えて、大師堂に行くと、お堂の前は立入禁止の規制がされていました。大きな屋根からの落雪が危険だからです。本堂と大師堂でのお参りが済むと、わらじ履きの素足の感覚がなくなっていました。凍傷になるのはこんな感じなのかなと、一瞬頭をよぎりましたが、同時に、歩いている時にはこの冷たさを感ずることなく歩

いていたのだと気づかされました。【十二頁に詳細】

ようやくたどり着く札所で、本堂と大師堂にお参りして御朱印をいただいても、滞在時間はせいぜい三十分ほどのものです。それに引き換え、札所までたどり着くには、何時間もかかるのは珍しくもありません。中には、次の札所まで数日要すところもあります。その道中で、札所はまだかまだかと急いた気持ちになっても札所が近くなるわけでもなく、登りでたびたびあえいでいても、少し休めば普段通りの呼吸に戻るということも体験済みです。とにかく、自分の足を一歩一歩前に出す事のみにならざるを得ないのです。なんでこんな急な坂を上った所に札所を作ったんだと愚痴っても、わざわざ厳しい山道を選んでいるんじゃないかと先達の住職を恨んでも、

何一つ解決するわけではありません。いつしか、口数も少なくなり、一歩一歩歩くという充足感に包まれていくのでした。

それは、宝珠を手に入れた龍が、自分の願望を叶えるために艱難辛苦を乗り越えた、かけがえのない充実した時間を体験したのと同じだと思います。

無理から無事に

禅に「求心歇む処即ち無事」（ぐしんやむところすなわちぶじ）という言葉があります。ご紹介した歩き遍路でいえば、早く札所に着きたいという思いが、一歩ずつ足を踏み出すという確実さに昇華されて、その思いが消えると、愚痴や不満もなくなったストレスフリーの心になれるというのです。

はじめて歩き遍路に参加した人の中には、こんなつらいのは自分には無理だと感じる人もいます。一日に二十キロも歩いたりすることもあるので、次回までには毎日歩いて準備をしなければと思います。八十八か所を歩こうという求心がそうさせるのです。

そんな準備をすれば、次の回は前より無理なく歩くことができるようになります。回を重ねれば、長い距離歩くこと、雨が降ろうが風が吹こうがただひたすら歩くことが当たり前に変わっていきます。最初に無理だと思ったことが当たり前のこと、「無理なく」になり、愚痴や不満のない無事へ変わっていくのです。

願いや夢を求める心をなくしてはいけません。そのために多少の無理も苦労も避けては通れません。その無理や苦労が、当たり前のことになることで無事という安心の心を手に入れることができるのです。

今年の干支の龍のように、求心が歇んで、無理なく無事な日々を送られることを祈っております。

宗耕禅士、垂示式挙行

圓福寺副住職就任

圓福寺学徒であった宗耕禅士は、令和五年十月十二日に、本山に於いて垂示式を執り行い、晴れて圓福寺の副住職を拝命いたしました。

大本山妙心寺の開山堂での垂示式には、圓福寺の役員さんも足を運んで下さり、厳粛な式を固唾をのんで見守って下さいました。

垂示式の様子を、役員の塚本さんがまとめて下さいました。

垂示式に参列して

塚本　勝身

七月の役員会において、和尚さんから「十月十二日、妙心寺において宗耕禅士の垂示式が行われる。」とのご案内があった。

垂示式？浅学菲才の私にとって初めて耳にする言葉だったが、寺報に目を通すと、垂示式とは「開山様の教えを継承することを認めてもらう妙心寺派で一番大切な式で、副住職になるための登竜門である。」とのこと。これは、いかに平素寺報を熟読していないかを露呈する結果となってしまった。

当日垂示を行う者の寺名が掲示されている。

それにしても、このような一世一代の儀式に参列できることは大変光栄なことであり、役員の平山さん及び西川さんと共に、和尚さんに同行させていただいた。

京都市内のホテルに前泊し、早朝タクシーで妙心寺南門に到着したところ、お天道様も門出を祝うが如く日本晴れ。掃き清められた境内を、秋冷が身も心も引き締め、垂示式が行われる開山堂に歩を進めた。

開山堂では、外縁に案内され、午前七時から総勢四十数名の僧侶による開山忌が執り行われる様子を見学したが、堂内の様子は片隅から垣間見るだけだった。

開山忌が終わると同時に大半

管長様に礼拝。

の僧侶が退堂し、引き続いて愛知県圓光寺および愛媛県城願寺のお弟子さんと宗耕さんの三人の垂示式が行われた。

宗耕さんの禅問答になったとき、堂内の様子が見える位置への移動が可能となったため、真正面に宗耕さんを見届けることが出来た。六名の僧侶との禅問答は、ぼそぼそと小声でやり取りしているため全く聞き取れない。しかし、宗耕さんは、居並ぶ高僧を前にして堂々たる立ち居振る舞い、その凛とした姿こそ開山様の教えを継承するにふさわしい禅僧と見受けられた。

後で宗耕さんにどのような問答であったのか尋ねたが、質問すること自体が全くの愚問だった。そもそも禅問答は、ちぐはぐでわかりにくい問答のことで、正解はない。固定概念にとらわれず、考えることより感じることが大切で、いかに物事の本質を見極めるかにあったのだ。

ましてや第三者が聞き取るものではないので、垂示式で声が聞こえなくても当然のことと気づかされた。

五体投地の礼拝後、宗務総長様じきじきに職状が授与され、「今後は副住職として、住職を助け、檀信徒への布教、寺院の隆盛に努め、初心を忘れず修行に励まれたい。」旨の祝辞をいただき、厳粛のうちに円成した。

垂示式を終えて堂内から出て来た宗耕和尚さんは、すっかり副住職としての風格を漂わせて

六人の僧侶と禅問答を行う。

おり、この晴れ姿を是非とも御母堂様に見てもらいたかったと痛感したが、いつも見守ってくれているからこそ、最高の儀式を成し遂げられたものであり、今後、圓福寺の隆盛は間違いなしと確信した。

当夜は、西川さんのご案内で祇園の水炊き屋で鍋を囲んでささやかな祝宴を催したが、ご存命であれば当然同席した一言居士の高橋さんのうんちくに富んだ話を聞けなかったのは残念であった。しかし、きっと寺庭尚美様とご一緒に祝杯を挙げ、講釈を垂れているであろうことは想像に難くなかった。

宴席の最中、檀信徒の皆さんで副住職の就任祝いの席を設けようということになり、令和六年のお寺花園会の新年会において同時開催することが決まったので、皆さん奮ってのご参加をお願いして垂示式の感想と致します。

垂示式を終えて、開山堂前にて記念撮影。右から、西川氏、平山氏、住職、副住職となった宗耕和尚、愛媛城願寺副住さん、塚本氏。朝日を浴びてまぶしいのか、垂示式を無事終えて晴れがましい顔なのか、どちらでしょうか？

千葉県寺班三等地一級圓福寺学徒

宮田宗耕

任　千葉県千葉市稲毛区穴川町三七五

寺班三等地一級圓福寺副住職

令和五年十月十日

臨済宗妙心寺派宗務総長　豊口善站

右認證する

臨済宗妙心寺派管長　小倉宗俊

千葉県寺班三等地一級圓福寺副住職

宮田宗耕

本派法脈相承本儀を履行す

令和五年十月十二日

妙心寺派宗務本所

寺院役員本山研修会

臨済宗妙心寺派では、毎年、全国の妙心寺派寺院の役員研修を、大本山妙心寺にて開催しております。例年百名前後の役員さんが本山に上山して、一泊二日の研修を通して、それぞれの寺院の教化布教活動の情報交換や、地域ごとの実情などを話し合う、貴重な場にもなっています。

今年度の役員研修会に、圓福寺からも、塚本勝身さんと吉村利晴さんの二名が参加されました。参加された吉村さんの、研修報告をご紹介いたします。

役員研修会に参加して

吉村　利晴

寺院役員研修会は、十一月十日（金）十四時から、十一月十一日（土）正午までの一泊二日の日程で、大本山妙心寺の花園会館で行われました。

初日は、寺院役員としての心得や、妙心寺と花園会の由来の講義を受けました。

翌日は、朝の七時から坐禅が行われ、二日間の短い時間でしたが、講義や坐禅等、貴重な時間を経験させてもらいました。

特に印象に残りましたのは、「役員の心得」の講師から、宗教に対する世間の風当たりが強い昨今であるが、今後のお寺は公共性を重視し、地域に根差した布教活動が益々大切になるとのお話でした。この言葉は、研修参加者全員に対する目標・課題であると私は受取りました。

もとより私は、単なる世話人のつもりで役員をお引き受けしたものですので、この課題・目標に応えられるのか、お寺のお手伝いができるのか心配しているところです。

幸いにも、当圓福寺には、先輩役員さんが三名、平山さん、塚本さん、西川さんがおられますので、安心しております。

副住職さん、先輩役員さんのご指導をいただきながら、微力ですが頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

令和５年度　寺院役員本山研修会日程

11月10日

	行事	場所	備考
14：00～14：30	受付	花園会館	
14：30	開会式	花園会館　教化ホール	
15：00	講座①	花園会館　教化ホール	講師：総務部長
16：00	講座②	花園会館　教化ホール	講師：花園会本部長
17：00	チェックイン	花園会館	
18：00	夕食	花園会館　教化ホール	
	入浴・就寝	花園会館	

11月11日

6：30	起床	花園会館	
7：00	朝課・坐禅	法堂（はっとう）	
8：00	朝食	花園会館　教化ホール	
	チェックアウト	花園会館	
9：20	閉会式	花園会館　教化ホール	
10：00	法皇忌半斎（ほうおうきはんさい）	法堂（はっとう）	妙心寺開基花園法皇の祥月命日の法要に参列していただきます。
11：00	昼食	微妙殿（みみょうでん）	法皇忌のお膳をお召し上がりいただきます。
12：00	散会		
	散会後、希望者は開山堂参拝		

法皇忌半斎の様子

妙心寺の仏殿と法堂

法皇忌では、藪内宗家による献茶式も行われました。

三巡目 四国あるき遍路の旅

第十一回

令和五年十一月十七日～十九日

突然の暴風と横殴りの雨

観音寺市の六十八番と六十九番をお参りした後、時間的に余裕があれば裏山に登り、琴弾公園にある巨大銭型を眺める所ですが、寄り道せずに次の七十番本山寺に向かうことにしました。

遍路道は財田川に沿って、右岸を行くか左岸を行くかです。左岸は自動車の交通量が多い道ですので、交通弱者である歩き遍路には右岸が適しています。

黒い雨雲が後ろから迫って来ており、いつ降り出すか気になる所でしたが、それは突然襲って来ました。ちょうど本山寺まで半分ほど歩いた時に、左手からの突風とともに大粒の雨に見舞われました。たまらずに雨具を身に付けようとするのですが、雨具を出す間にずぶぬれになり、カッパは風にあおられてなかなか身に付けられないといった有様でした。

ところが、雨支度をして歩いているうちに、さっきの雨風がうそのようにやむではありませんか。しかし、カッパを脱ごうかと思うとまた大粒の雨が降ってくるという天候不順でした。そんな雨風にもてあそばれながら、ようやく七十番本山寺にたどり着いたのでした。

雨風がなければ、川沿いの平坦な道を、遠くに見えてくる本山寺の五重塔を目指して、のんびりと歩くルートなのですが、残念！

結局、本山寺では雨の中、本堂と大師堂でお参りすることになりました。十一月の雨の平日、時間も午後四時近く、ほかにお遍路さんがいるはずもなく、私たちの般若心経だけが境内に響きました。

本山寺五重塔をバックに

雲辺寺への第三ルート、「境目峠越え」

七時二十分にホテルを出発。タクシー分乗にて、雲辺寺への峠越えの入口まで連れて行ってもらいました。

愛媛、徳島、香川の交わる県境に位置する雲辺寺へは、愛媛から行くと2巡目で歩いた曼陀峠越えか、境目峠越えの2ルートがあり、徳島側からは1巡目で急登に苦労した、阿波遍路道雲辺寺道の計3ルートがあります。今回は、3ルートの残りのルート、境目峠越えを歩くことにしました。三巡もしているので、これで3ルート踏破ということになります。

「七田集落の境目峠登り口まで」と地元のタクシー運転手さんに伝え、大船に乗った気でいたら、いつのまにか境目トンネルを抜けてしまいました。このまま行ったら、急登の雲辺寺道の歩きになると思い、トンネルを引き返してもらい、ようやく予定の境目峠登り口で下ろしてもらいました。国道にその登り口の道しるべもなく、脇道に入った所にようやく道しるべを見つけて、いよいよ二日目の歩きのはじまりとなりました。

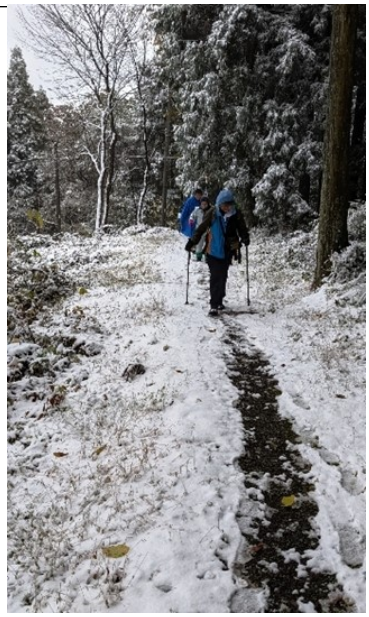
歩き遍路の命綱である道しるべが目立たないのは、あまりこのルートを歩く人がいないということです。3ルートの中で一番登りがきつくない代わりに、歩く距離が長くなるというデメリットがあるからです。急な登りを選ぶのか、長い距離の歩きを選ぶのか、人生の分かれ道みたいなものです。

暴風雨から雪景色へ

愛媛と徳島県境の境目峠へは、登りを覚悟していたためか、難なくたどり着くことができました。峠には民家も点在していて、遍路道の峠としては生活感があり、ちょっと拍子抜けでした。

さて、ここからが長丁場です。とはいえ、道は自動車が通れるほどのへんろ道で、車が通れるほどですから、急登もなくくねくねと続いています。

およそ2時間で曼陀峠からのへんろ道と合流して、そこからはだらだら坂の舗装道路となりました。途中、遠くの山を眺めると、頂上辺りは真っ白く雪化粧？でも、他人ごとではありません。坂を登るにつれて、木々の葉に雪、道の両側の草むらに雪、お寺の手前では私たちが歩くへんろ道にも雪という具合に、暦は秋なのに、真冬のあるき遍路になってしまいました。



山中の遍路道は雪道になっていました。

極寒の雲辺寺！

雪景色の雲辺寺での読経は、お経の声まで氷る様な寒さでした。屋根に雪が積もった大師堂は、屋根からの落雪の恐れがあるため近寄ることもできずに、離れた所から読経致しました。大師堂前は風も強く、お経の声も風で飛ばされました。

集合写真を撮るために全員を待っている間に、わらじの足は感覚がなくなってしまいました。

雪景色の雲辺寺にて

歩きでの下山を断念！

雲辺寺でお参りを終えると、時刻は午後1時近くでした。しかも、寒さや強風の中、お昼を食べる場所もなく、まだ昼食を食べていません。

予定より1時間遅れの上、この悪天候の中、六十七番大興寺まで9.4㎞の下りは積雪もあり、転倒・滑落の危険が予想されたので、やむなくロープウェイでの下山を決断しました。の助けを借りることにしました。

ロープウェイ山麓駅は67番と離れた方にあるので、山麓駅からはタクシー分乗となりました。

昼食の不満も出ず！

いつものあるき遍路なら、お昼近くになると、「今日のお昼はどこで食べますか。」とか「そろそろお昼でしょうか？」などと某氏から声がかかるのですが、雲辺寺ではそんな声が聞こえてきませんでした。風雪をしのいで食べられる場所がなかったからかもしれませんが、もしかしたら、あまりの寒さにさすがの某氏の口も凍えてしまって、動かなかったのかもしれません。

ロープウェイに救われる

歩きへんろ史上の最低気温！

ロープウェイ山頂駅は、瀬戸内を渡った寒気が吹き上げてきて、吹雪状態でした。麓に目をやると、陽に当たった観音寺の平野がはるか眼下に望めました。

一瞬、この暴風でロープウェイが運休になったらどうしようという不安に包まれましたが、13:00予定通り出発するようで、ほっと一安心。

ロープウェイに乗り込んで、駅舎を振り返ると「只今の気温」が表示されていました。【右の写真】なんと、－3℃。2巡目の横峰寺でも雪道を歩きましたが、そこには温度計がなかったので不明ですが、この－3℃が圓福寺のあるき遍路史上最低気温と認定いたしました。

本堂まで約五七〇段

仏教では、仏さんの住む山のことを「弥山」といい、弥谷寺は仏のいます谷のお寺という意味を込められているそうです。

その仏さんを祀る本堂は山の頂上付近に建てられているため、境内入り口

から約五七〇段の石段を登らなければなりません。雲辺寺を終えて、ほっとした身には結構応える参道です。

本堂の下にある大師堂は、札所中唯一、靴を脱いでお参りするお堂になっていました。

道程、三者三様

弥谷寺から下りると、右に駐車場に降りる石段があり、遍路道はまっすぐ山の中に入っていきます。その分岐点に、ご丁寧にも三つの道しるべが立っていました。三つも立っていれば、歩きのお遍路さんも迷うことはないでしょう。

でも、よく見ると、距離はそれぞれ違っています。私たちが歩く時に見慣れている道しるべは3.1㎞、真ん中は3.3㎞、左のものは3.8㎞。歩きへんろにとっては、この数百mの差が大きく感じられるのです。あなたは、どの距離を信じて歩きましたか？

食べられないうどん屋さん

弥谷寺の仁王門まで下りてくると、時刻は10時半。ここから次の曼荼羅寺まで約3.5㎞、竹林を抜ける山道もあるから約一時間とみて、丁度曼荼羅寺あたりで昼食の予定とめどが立ちます。しかも、グーグルマップによれば、お寺の裏に「うどんの里丸正」と表示があるのですから、おあつらえ向きとたかをくくっていました。

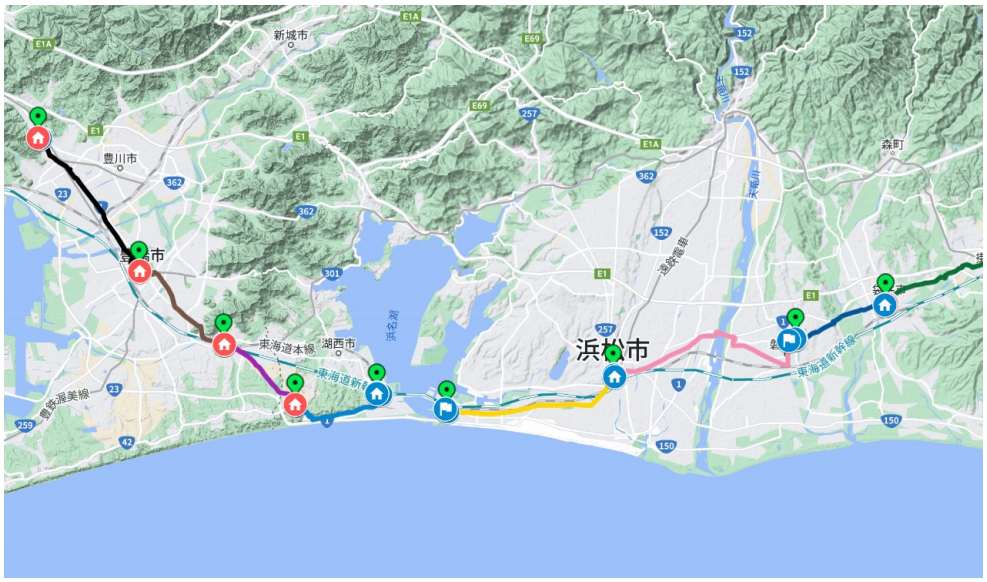
お寺に入る前に、丸正さんに立ち寄って、十三人食べられますかと聞くと、うちは製麺所だからうどんを食べることはできませんよ、とのことでした。なんと、製麺工場だったのです。食べられないうどん屋さんに、一同がっかり。お土産のうどんでしたら、と親切に教えてくれました。

今回の遍路記録

	期日	曜日	コース予定	食事・宿泊
1	11月17日	金	7:45発 JAL475 9:05着 9:40発 各自羽田空港到着、チェックイン 羽田空港 高松空港 空港連絡バス 10:33着 11:00発 ―徒歩― 11:45着 昼食 12:15発 バス乗り場「O」 高速観音寺バス停 約3.1㎞ こがね製麺所観音寺店 ―徒歩― 12:45着 13:30発 ―徒歩― 15:00着 15:20発 約1.6㎞ **68番神恵院・69番観音寺** 約4.5㎞ **70番本山寺** ―徒歩― 15:45着 15:58発 JR予讃線 16:03着 16:21発 約1.2㎞ 本山駅 観音寺駅 JR予讃線 16:39着 16:45発 ―徒歩― 17:00着 川之江駅 約0.8㎞ ホテルセレクトイン四国中央 18:30 夕食:活魚居酒屋「網元」	【歩いた距離】約11.2㎞ 昼食：こがね製麺所観音寺店 夕食:活魚居酒屋「網元」 0896-58-5812 ホテルセレクトイン四国中央 0896-22-3900
2	11月18日	土	6:30 7:20発 ―タクシー― 8:10発 ―徒歩― 10:00 ホテルにて朝食 ホテル 約12.2㎞ 七田バス停 約10.4㎞ 曼陀峠道合流点 12:20着 12:50発 13:00発 ―ロープウェイ― 13:10着 昼食 13:45発 **66番雲辺寺** 雲辺寺ロープウェイ 山麓駅 ―タクシー― 14:00着 14:30発 ―徒歩― 16:20着 **67番大興寺** 約6.4㎞ ホテルシェトワ観音寺 18:00 夕食:「はま寿司」 夕食は、ホテル近くの「はま寿司」に行く予定です。難所雲辺寺をお参りしたお祝いに、たくさん飲み食いしたいと思いますが、次の日もありますし、お支払いは各自でお願いいたします。	【歩いた距離】約16.8㎞ 昼食:タクシー途中で、コンビニ調達 ホテル シェトワ 観音寺 0875-23-7722
3	11月19日	日	7:00 7:30発 ―徒歩― 7:50着 8:06発 JR予讃線 ホテルにて朝食 ホテル 約1.2㎞ 観音寺駅 8:24着 8:25発 ―徒歩― 9:20着 ―徒歩― みの駅 約3.6㎞ ふれあいパーク「みの」 （トイレ休憩） 9:50着 10:30発 ―徒歩― 11:30着 11:45発 **71番弥谷寺** 弥谷寺仁王門 約3.5㎞ **72番曼荼羅寺** ―徒歩― 12:00着 12:15発 ―徒歩― 12:30 ―徒歩― 約0.6㎞ **73番出釈迦寺** 約0.6㎞ 曼荼羅寺に戻る 約1.1㎞ 12:50着 13:50発 ―タクシー分乗― 14:45着 「鳥坂うどん」で昼食 琴平駅 各自琴平散策 15:25発 空港リムジンバス 16:16着 17:30発 JAL484 19:00着 琴平駅前 高松空港 高松空港 羽田空港	【歩く距離】約10.6㎞ 昼食:「鳥坂うどん」 善通寺タクシー　0877-62-1151 【歩いた距離】約38.6㎞

僧堂で何してる？

番外「東海道～千葉へ行脚の旅」（その二）



■十月二十九日

午前六時四十分　宿発
午後四時半　岡崎宿着（岡崎第一ホテル）

朝からなんだかぼんやりとしていた。初めの十kmは快調だったが、それ以降はずっと足が痛い腰が痛いの思いとの戦いだった。体も徐々に重くなっていく感じもした。自販機で飲み物を買っていると小学生に話しかけられた。空手の道着を着ていたので「強くなれよ！」と言ったが、自分の方がしっかりとしなければならない。とにかく体が重い。

■十月三十日

午前六時四十分　宿発
午後四時　豊橋宿着（ルートイン豊橋）

スタートと同時に岡崎宿の中を縫うように東海道が設定されている、「二十七曲り」に当惑。地図なしではとても厳しい。足の痛みを感じながら歩きだしたが、徐々にエンジンがかかってきた。歩いていてなんだか楽しい気分になってきて、疲れや痛みも感じずに歩けた。今までは「しっかりせねば」と思って歩いていたが、そう思うほどしっかりとできない方向に進んでしまっていたことに気づく。歩々是道場、平常心是道。松の並木のところどころに休憩所があって助かった。椅子に座って休めるのは本当にありがたい。寒くなってきたせいか東司が近い。途中からとても頭が痛く、めまいがした。鎮痛剤で気休め。豊橋に近づく

岡崎二十七曲がり碑

ともうヘトヘト。小技でごまかそうとも最後は気持ち。途中ドライブスルー形式で所得あり。ありがたい。

■十月三十一日
午前七時半　宿発
午後三時　荒居宿着（ファミリーロッジ旅籠屋浜松）

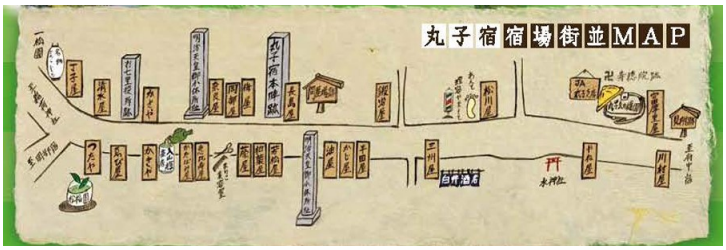
本日泊まる宿まで近いので遅めの出発。朝からボーっとしていた。歩くと頭の中で僧堂のことがぐるぐるとまわってとても不快な方向に気持ちが向いてしまった。豊橋の朝は学生が多く、活気がある。二川からはずっと静かだった。二川と白須賀の間には一面にキャベツ畑が広がっていた。白須賀の資料館前で休んでいると、そこにものどかなキャベツ畑が広がっていて、それを見ながらこのまま時が止まればいいと思った。白須賀宿をでたところの急な坂を下る際は海が迫ってくるようだった。ずっとコンビニで食事を済ませているせいか、頭痛と吐き気と気持ち悪さが止まらない。しっかりしたごはんが食べたい。

■十一月一日
午前六時四十分　宿発
午後五時半　袋井宿着（くれたけいん袋井）

前日しっかりと休憩できたため、浜松宿までは集中して歩くことができた。浜松宿を過ぎたあたりからひざ裏を針で刺したような鋭い痛みを感じた。鎮痛剤湿布サポーターでごまかしつつ、速度を落として歩いた。すこし膝の調子が不安だ。斎座でうどんを食べることができた。天竜川を渡ってから宿までの距離を見て焦る。一心不乱に磐田を歩きぬける。「早く歩かねば」という一心になってしまえば疲れも痛みも不安も二の次になってしまう。何事もぶれない軸があればスーっといく。宿に着くと疲れを一気に感じたが、長い距離を集中して歩けたという達成感があった。

■十一月二日
午前七時十分　宿発
午後五時　島田宿着（ネットカフェ）

朝から左足外側の張りがひどかった。昨日張り切りすぎたか。朝はとても心地よい朝だったが、足の不調のため、かなりのスローペース。掛川の町は一部だけだが、城下町といった雰囲気が作られていた。何度か周りを見渡してしまった。学生の団体とすれ違う時は挨拶のラッシュで対応が大変だった。しかし、少しくすくすと笑われている。雲水の格好はやはり不審者に扱われやすい。日坂の坂道は何も予備知識がなかったので思



わず見上げてしまった。何とも急な坂だった。四国二十七番札所神峯寺までの道路をコンパクトにしたような道路だった。そこを上ってしまえばあたり一面お茶畑でとてもいい風景だった。コンクリートの坂道を下りた後、今度は石畳の上り坂となった。しかし四国で慣れているせいか坂道はなんともない。今までずっと平坦なコンクリート道で脚へのダメージが大きかったと気づいた。この日はコンクリートと石の敷かれた道だが、平坦でなかったので脚へのダメージが少なく、比較的楽に進むことができた。平坦な道のつらさと坂道のありがたさが身に染みた。

■十一月三日

午前七時十分　宿発

午後四時半　府中(静岡)宿　(マイホテル竜宮)

朝からとても左足の外側の筋肉の張りが痛い。徐々に歩きながら慣らしていった。何度もベンチに座って休んだ。岡部宿と丸子宿の峠は昔ながらの峠で小石がゴロゴロと転がっていて四国の道を彷彿させた。途中は幅が一mもないような荒れた坂もあった。昔の人は皆、ここを通ったのだと考えると尊敬した。峠を越えた後の集落は山間の小さな落ち着いた雰囲気が漂っていた。トンネルが集落の下を通ったことで発展が滞ってくれたおかげで昔ながらの雰囲気が残ったのだと思った。丸子の手前にあるファミリーマートの横の食堂「東海道」で斎座をいただいた。何の変哲もない野菜炒め定食だったがとてつもなくおいしく感じた。同時にありがたく感じた。途中に「丁子屋」さんという昔ながらの茶屋があった。行列ができていた。とろろ汁が有名なようだった。峠越えはいろいろと忘れることができてありがたいがその後の平地で疲れが一気に押し寄せる。疲れたところに府中の宿内の曲りに曲がった東海道はこたえる。

丸子宿の「丁子屋」さん

市原別院耕雲寺収穫祭

十一月十一日、朝方までの雨も上がり、耕雲寺の原っぱに、大人から子どもまで三百四十人以上が集まり、収穫祭を執り行いました。

九時半から仮本堂で、園児による献灯・献花をはじめとして、収穫感謝の法要を行って、収穫祭が始まりました。

十一月とは思えないような気温が続いていましたが、当日は暑さも収まり、絶好の畑日和となり、親子でさつましもや里芋の収穫と畑の片付け。側溝掃除、住職が切っておいた薪の整理、さつき周りの整備など、たくさんのお手伝いをしていただきました。

午前中いっぱい畑作業と野良仕事をしていただき、待望の昼食となりました。昼食には、いずれも畑で育てたお芋を使って、さつまいもご飯、芋の子汁、スイートポテトピザといったメニューが用意されました。ちなみに、ご飯は一斗二升炊き、ピザは約百枚焼きました。ピザ生地以外は、お芋はもちろん、薪も、ピザ窯も、ピザ小屋もすべて手作りです。働いた後の空腹、秋のさわやかな空気、広い空と広い原っぱも、格別な調味料となり、心もおなかも大満足な収穫祭でした。

喜徳院三回忌

去る令和五年十一月二十六正当日、当山寺庭宮田尚美、

喜徳院和気宗尚大姉

三回忌を執り行わせていただきました。

法縁の深いお寺さんと役員さん、親族などだけでの法要といたしましたが、それでも三十数名のご参列をいただきました。

般若心経、消災呪にて本尊回向、観音経、白隠禅師坐禅和讃にて三回忌のお焼香お参りをいたしました。その後、本堂西側廊下より墓所を遥拝してのお焼香お墓参りとなりました。

席を書院に移しての出斎（会食）は、感染対策をしてではありましたが、故人の思い出話をたくさんしていただき、心温まる良い供養となりました。

（６月の「園だより」から）

身近なサスティナブル

今年の年長さんは、食べること・育てることを活動の中心に据えているようで、しょっちゅう何か作っては食べているようです。

育てる方はどうかというと、お寺の裏にある畑に、ナス・きゅうり・とうもろこし・トマト・ピーマンなど、さまざまな野菜の苗を植えて、子どもたちが足しげく水やりに通っています。水やりの勢いが余って、苗を踏んづけたり、大きな葉っぱの雑草を見つけて水やりをしてしまったり、にぎやかな畑作業をしています。

でも、育てる活動なら、種から取り組むのがいいのになあ。歌にもあるじゃありませんか、芽が出てふくらんで、は～なが咲いて・・・、その生長の過程からいのちのたくましさや不思議さを身近に知って欲しいなあと。だって、小さな小さな種が生長して大きなかぼちゃができたり、ナスやキュウリがたくさん収穫できるなんて、♪忍法使って空飛んで♪に負けないぐらいすごいことなんだから・・・。

そんなことを思っていたら、メインの作物を「あずき」にして、種からまいて育てるそうです。さては、あんこを作って、お団子かな、お饅頭かな、おしるこかなと、私もおこぼれを期待しています。聞けば、このあずきの種は園児のおばあちゃんからいただいたものだそうです。しかも、何年か前の活動で栽培したあずき、それを卒園の時に記念品として差し上げたのですが、そのあずきを毎年育ててくださって、たくさん譲ってくれたのでした。あれから何年たっているんでしょうか。あずきの命が継続しているという、身近なサスティナブルが、こんなところにあったと気づかされました。

４月に母のご法事があり、その子ども・孫が集まりました。親が子を産み、その子が孫を産み、その孫が・・・と考えると、私たちの命もまた、さらに身近なサスティナブル！

サスティナブルは、継続するというサスティインと、可能であるというエイブルからできた言葉だそうです。ひっくり返してその意味を考えると、できればいのちが続いていってほしいという、親の・・・そして、人類の願いをも表している気がします。

土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、各種体験などをしながら懇親・談笑する自由空間です。たくさんの縁が広がります。

【期日】
一月二十一日（日）花園会新年会
副住職就任祝い
二月（未定）
三月（未定）　春彼岸法話会
四月二十日　歩禅会（鋸山？）
五月十八日　市原ボランテラ
六月二十二日　仏教シアター
七月二十日～二十一日　禅童会お手伝い
八月二十四日　地蔵盆お手伝い

【会費】テーマイベントの後、懇親会
花園会員　男性　二千円
女性　千円
花園会員外　男性　三千円
女性　千円

【申込】
詳細は、行事ごとにご案内いたしますので、奮ってご参加ください。

写経会

般若心経を写経いたします。大きめな字でお手本が印刷された、とても書きやすい写経用紙を使用しています。
お道具の準備から毛筆の基礎なども親切にご指導いたします。

【前期期日】
二月四日
三月三日
四月七日
五月十二日
六月二日

【後期期日】
六月三十日
八月四日
九月一日
十月六日
十一月十日

【時間】
午前十時～十二時

【会費】
一期五回で、花園会員三千円
会員外　五千円

【講師】
斉藤　加代子先生・住職

【用意するもの】
小筆、硯、墨、半紙

【定員】
二十名

【申込】
お寺までご連絡ください。

茶禅会

日本の茶道は深く臨済宗の教えを随所に体現しております。「わかりやすい」をモットーに、基本を大切にした茶禅会を目指します。ウン十の手習いでも構いません、お寺で茶道に親しんでくださる皆さんのご参加をお待ちしております。

【日時】
毎月第二・第四月曜日午前十時～

【会費】
月五千円
（花園会員には二千円補助）

【講師】
裏千家　小林　宗美先生

【服装】
白い靴下（それ以外は自由。）

【用意するもの】
裏千家用の扇子・帛紗・懐紙
（茶禅会で購入することもできます。）

【定員】
五～六名

【申込】
お寺までご連絡ください。
ご不明な点など、何なりとお寺までお問合せください。

令和６年年回表

回忌	亡くなった年
一周忌	令和五年
三回忌	令和四年
七回忌	平成三十年
十三回忌	平成二十四年
十七回忌	平成二十年
二十三回忌	平成十四年
二十七回忌	平成十年
三十三回忌	平成四年
五十回忌	昭和五十年
百回忌	大正十四年

法要の会場として、どなたでも本堂がご使用できます。お参りの方はすべて椅子席ですので、ご安心下さい。
また、法要後のお膳のご用意もできますので、お気軽にご相談ください。

令和五年十月～十二月期 お寺と和尚の日録抄

10月15日	幼稚園、入園願書配布
17日	幼稚園、だるま忌
20日	京都圓福僧堂万人講加担（新命和尚）
	幼稚園、秋たんけん　於市原別院
22日	涅槃精舎毎歳法要、布薩会
	涅槃寄席
30日	「茶禅会」（茶道教室）
11月1日	幼稚園、願書受付・入園手続き
5日	写経会
6日	「茶禅会」（茶道教室）
8日	月例役員会
10日～11日	寺院役員研修会（役員）　於妙心寺
11日	市原別院耕雲寺収穫祭
13日	臨済録勉強会（新命和尚）於湯島麟祥院
16日	妙心寺派巡回住職研修会　於鹿島
17日～19日	四国あるき遍路の旅（三巡目第十回）
26日	寺庭宮田尚美三回忌
27日	「茶禅会」（茶道教室）
28日～1日	京都圓福僧堂荷担（新命和尚）
12月6日～8日	月例役員会　於沖縄
9日	幼稚園、おさらい会
11日	「茶禅会」（茶道教室）
12日	幼稚園、成道会
15日	幼稚園、もちつき
20日	幼稚園、二学期終業式
23日	土曜会、歳末ボランテラ大掃除
25日	臨済録勉強会（新命和尚）於湯島麟祥院
	「茶禅会」（茶道教室）
31日	年越しまいり

「堂守日記」頒布します。

昨年、住職両親の軍事郵便を含む往復書簡や母親の日記等が大量に見つかり、「堂守日記」としてまとめました。
岩手の霊桃寺の住職を務めていた父が、応召されてお寺の留守を女手一つで預かっていた母。軍事郵便でお寺の事、留守を守る母を気遣う様子などが手に取るようにわかります。
また、復員したものの結核を患い長期療養を余儀なくされ、お寺の事、家族の事を気に掛ける父の心情も手紙の端々に読み取ることができます。
実質在任期間六年数か月だった一人の和尚の生きざまに興味のある方に、「堂守日記」をお分けいたします。住職自らが活字起こしをして、つたない編集をしたものですが、ご希望の方は、お寺までご連絡ください。

令和六年 年間行事予定

1月

1日～3日　新年修正会
仏教興隆・国家安泰・五穀豊穣・檀信徒各家の繁栄などを祈祷する法要をしています。この修正会で祈祷した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。

21日　花園会新年会
副住職就任祝い
二十四ページのご案内をご覧下さい。

2月

5日　涅槃会
お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃図の掛け軸を掛けて法要をします。

16日～18日　三巡目の第十二回
四国あるき遍路の旅

3月

17日　彼岸会法要

17日～23日　春彼岸
春彼岸の合同法要を、本堂にて執り行います。あらためてご案内を差し上げます。

4月

8日　降誕会（花まつり）

6月

22日　土曜会「仏教シアター」

7月

7日　山門施餓鬼会
初盆の仏様はじめ、檀信徒各家の仏様の施餓鬼会を致します。あらためてご案内を差し上げます。

11日～16日　七月盆の棚経
七月盆のお宅に棚経にお伺い致します。

20日～21日　圓福寺寺子屋
「禅童会」
一泊二日の子どもたちの坐禅会です。坐禅だけでなく、楽しいゲームやいろいろな体験もできます。たくさんの参加を待っています。

8月

9日～16日　八月盆の棚経
八月盆のお宅に棚経にお伺い致します。

24日　地蔵盆
子どもたちの楽しいお盆の行事です。夜店や野点・ゲーム大会などで盛り上がる夜祭りです。併せて、地蔵盆の法要で水子・ペット・人形供養も行います。

9月

14日　土曜会（茨城へ栗拾い）

10月

5日　達磨忌
禅宗初祖「達磨大師」のご命日。

10月

27日　涅槃精舎毎歳法要
布薩会
永代供養の方々の法要と、生前戒名の授戒会。

27日　土曜会「涅槃寄席」

11月

未定　市原別院収穫祭

15日～17日　三巡目の第十三回
四国あるき遍路の旅

12月

8日　成道会
お釈迦様がお悟りを開かれた日です。

21日　歳末ボランテラ
花園会忘年会

31日　年越しまいり
あまざけ・般若湯・年越しそば・福だるま・お守り・新春祈祷など、たくさんお参り下さい。

釈迦苦行像【圓福寺蔵】

花園会新年会と副住職就任祝いのご案内

圓福寺では、毎年、和やかな楽しい新年会をしています。たくさんのみなさんのお越しをお待ちしております。

今年は、昨年十月に副住職に就任した宗耕和尚さんのお祝いも併せて執り行います。

圓福寺とご縁のあるみなさんは、千葉という地域柄、全国各地のご出身の方がほとんどです。北は北海道、南は九州沖縄までという決まり文句の通りです。

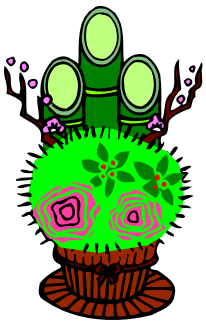
石川啄木がふるさとの訛りを上野駅に聞きに行きましたが、圓福寺の新年会に来れば、全国のお国言葉を聞くこともできます。

どうぞ、お気軽にお寺の新年会にお出かけ下さい。

日時　一月二十一日（日）
午前十一時　新春ご祈祷
正午　新年懇親会

会費　五千円
（副住職就任祝い、ご祈祷料、お守り、お膳・飲み物代を含みます。）

申込　会費は当日受付です。電話・ファックス・メールなどで、お寺までご連絡下さい。

圓福寺住職　宮田宗格
圓福寺副住職　宮田宗耕
圓福寺花園会　平山　実
塚本勝身
西川浩平
吉村利晴

令和６年
西暦2024年
仏暦2567年